

地 域 内 神 社 一 覧 表

	神 社 名	住 所	由緒、祭事（例祭等）について
滑     川     町	大雷淡州神社 （雨乞い祈願）	滑川町山田1852	この地方がしばしば早魃に見舞われ凶作が続くので、 <b>五穀豊穡を願って雨乞いの神大雷命</b> と三韓鎮定に功績を挙げた神功皇后を祭神として奉祀した神社と伝承される。勧請の年代は、資料に寄れば応永二乙亥（西暦1395）年と推察される。寛永二乙丑年に邑の鎮守となり、明治四年三月に村社に列格した。 祭神「大雷命」、「息長足日売命」 元旦祭（1月1日）、祈年祭（3月10日）、例祭（7月28日）、秋祭（10月17日）、新嘗祭（12月11日）、大祓（12月25日）
	浅間神社 （雨乞い行事）	滑川町福田2953-2	祭神は「木花咲耶姫命」と「帯刀義賢」である。『新編武蔵風土記稿』には、この神社について、「当社ハ帯刀先生義賢ノ靈ヲ祀レリト云フ。久寿二年（1155年）義賢討レシ時、其家臣等此辺ニ落来リテ土着セシモノ八人アリ。ソノ子孫等天福年中（1233～34）此社ヲ造建シテ鎮守ト崇メシ由、馬場村旧家ノ条ニ載セタリ。（以下略）」と記されている。また、「比企郡神社誌」によると、「当社は古代より富士浅間として女子は勿論武蔵武士の崇拜多く、殊に源義賢を祀れるに依り、広く人に知らる。久寿二年（1155年）義賢武蔵大蔵谷の戦に悪源太義平に破れ、鬪死せしに家人義賢の身片を抱き、八人の家族と共に深夜槻川を渡り福田の地を指して、鎌倉街道に添へる浅間山に身を寄せ、馬場裡に葬りたりとの言伝あり。」 この神社の社殿は、凝灰石の岩山の上に建てられている。浅間山は、雨乞いの山で、ここで雨乞いを行っていた。 戦時中、山頂辺から宝徳2年（1450年）奉納の鰐口及び刀一振出土されている。 元旦祭（1月1日）、祈念祭（2月18日）、例祭（7月15日）、秋祭り（10月17日）、新嘗祭（11月28日）、大祓（12月28日）
	熊野神社 （獅子舞奉納、雨乞い）	滑川町福田1734	祭神は「伊弉冉命」・「事解男命」・「速玉男命」でご神体は三体の石神像。『比企郡神社誌』によると「当滑川村熊野神社は、紀伊牟婁郡熊野速玉神社の分社として祀られ、熊野三神の御神体あり、古来僧徒専ら二所を掌り、盛に本地垂迹の説を唱へ熊野大権現と御名せるなる、明治4年3月普通村社に列格（以下略）」と記せられている。「新編武蔵風土記稿」によれば、当神社は、天台宗普光寺持として記載され同寺は、資料から見てその開山は鎌倉時代に遡り、室町後期まで下福田地域で寺職を司る寺と推測されることや、境内に樹齢五百年を越えると見られる杉の大樹が繁茂していたことから、当社の創始は室町以前と推察される。 オテウチ（1月1日）、祈年祭（春祭り）（4月15日）、天王様（境内の八雲神社の祭日）（7月15日）、秋祭り（お日待）（10月17日）、大祓い（12月25日）
	淡州神社	滑川町福田3441-3	祭神は「息長足姫命」。『比企郡神社誌』によると「この神社の由緒について、「当社創立は不詳なれども、氏子旧家古書の発見に仍ると応永二年（1395）当社例祭に獅子舞あり、当時は天台宗別当光栄寺持とあり。百拾年前吉田家の祖先の書記されしという当番帳ありしに、応永以前祀られしを実証するものなり、当地は上古早くより福田と名付く。神功皇后熊襲平定に大功有り其の功績を尊び仰ぎ奉りて祭神と祀られるなり。勧請年記未詳、寛永二年（1625年）三月霊代を改め鎮守とす。明治戊子（1888年）正月当日、吉田、由良之助懸ると有る。奉額に正一位淡波州大明神十歳童院忠書と有り。正一位を授けらる。明治4年3月村社書上済。（以下略）」とある。 元旦祭（1月1日）祈年祭（2月18日）、春の大祭（4月15日）、秋の大祭・お日待・神嘗祭（10月17日）、新嘗祭・新穀祭（11月28日）、大祓い（12月28日）
	八宮神社	滑川町和泉226-3	祭神は「素盞鳴命」・「大己貴命」・「火産霊神」・「倉稻魂命」・「大山祇命」・「稲田姫命」。『新編武蔵風土記稿』にはこの神社の記載はないが、『比企郡神社誌』にはこの神社の由緒について、「（前略）勧請年記未詳、寛永二年（1625年）三月鎮守社とす。元禄二年には、氏子五十六戸とあり明治二年の古書に依ると『一、社中神主寺山啓位階無之真言宗当村円福寺当社別当致し来候処王政復古神祇興隆之御布令二恭順当住弘洲儀明治二己巳年十二月中於神祇祇官復飾改名御聞濟』とあり。明治四年三月村社書上済（以下略）」。 テウチ（1月1日）、春の大祭（4月19日）、秋の大祭・お日待（10月17日）、新穀祭（11月27日）、大祓い（12月29日）
	雷電神社 （雨乞い祈願）	滑川町中尾348-1	祭神は「別雷命」で、御神体は「御神刀」であるという。「埼玉県神社明細帳」によると、「応永九壬午年（1402年）夏、天下早魃シ人民田稻畑作ノ枯ントスルヲ歎キ村民拳テ大城加茂大神ニ大願ヲ納メ雨ヲ祈ルコト幾何ニシテ幾多ノ豪雨ヲ賜フ。依テ村民其神ノ盛昌ナルヲ尊シ、此ニ加茂ノ大神ヲ奉移シ此ニ以テ雷電神社ト敬号シ鎮守ト仰キ奉ルト口碑ニ伝アリ仍テ今ニ早魃ノ時雨ヲ祈レハ霊現ノ弘大ナルコト必セリ。明治六年中、村社ニ列セラル（以下略）」とされている。（此の地方が大早魃に襲われ作物が枯死寸前にあった時、里民拳って山城国加茂大神に雨を祈ったところ程なく豪雨が降り郷民の苦難が救われたので里民その神徳の顕著であったことを尊崇し加茂大神の神霊を当地に奉祀し雷電神社と称し鎮守の神として崇拝した。） テウチ（1月1日）、新年祭（1月3日）、春の祭典（3月15日）、秋のお日待（10月15日）、大掃除（12月15日） 特殊祭事として「雨乞祭」があり、御神木の榎の頂上に旗を立てて祈念すれば必驗ありと云う。

地 域 内 神 社 一 覧 表

	神 社 名	住 所	由緒、祭事（例祭等）について
	阿和須神社	滑川町水房238-1	本宮は、大和国添上郡にある阿波の神社。垂仁天皇の曾孫三枝の別連の末裔が此の郷を開き後狛江郷の戸主直継の末裔によって永仁年中（西暦1290年）字御山の台に三柱の神霊を祀ったと伝えられる。寛永元年に至り祐海法師により現地に遷座し、その後寛延2年11月金雄法師および氏子一同にて社殿を再建した。明治6年村社となり、大正5年指定村に昇格した。 新年祭（1月3日）、春祭（4月15日）、例祭（10月13日）、秋祭（12月18日） 祭神：「大鞆和氣命」、「息長足比売命」、「武内宿称命」
	諏訪神社 （雨乞い祈願）	滑川町羽尾4973-1	当社は、往古この地方干ばつの際、「信濃国諏訪神社」に雨を祈ったところ、その靈験が顕著であったので、文亀二壬戌（1502年）年7月その分霊を勧請したと縁起書にある。雨乞いの神でもあり、また養蚕繁昌の神として多くの信仰を集めた。 当社に「竜神渡り」の伝説がある。8月26日の例祭前夜に信濃の本社よりこの神社に竜神が渡御するので、中尾耕地に竜の通った跡が見られたという。 祭神「建御名方命」、「八坂刀売命」 祭事 節分際（二月の節分の日）、春祭（3月26日）、己の晩祭（5月上旬の己の晩）、例祭（8月26日）。秋祭（11月26日）
滑	月輪神社	滑川町月輪418	和銅二巴西（西暦709）年に大宮氷川神社の神霊を此の地に分社したと鎮守名に記載されており、その後建久戊午年三月、月輪兼実の霊を合祀して氷川大明神と称した。享保八年九月宗源源宣旨により正一位の神位を贈られた。明治維新の際明神号を廃し、氷川神社と称し明治41年3月大字内の五社を当社に合祀して、今までの氷川神社号を月輪神社と改称した。明治4年村社となり、大正5年指定村社に昇格した。 関白藤原忠通の子で九条家の粗である九条兼実（くじょうかねざね）は、京都の月輪寺（がつりんじ・つきのわでら）に隠匿していたことから「月輪殿（つきわでん）」と、呼ばれていた。その霊が合祀されているといわれているのが月輪神社で、「月輪」の地名もここに由来していると言われている。 元旦祭（1月1日）、春祭（4月15日）、例祭（7月15日）、秋祭（12月19日）、新嘗祭（11月23日） 祭神「須佐能男命」、「月輪兼実」、「木花佐久夜毘咩命」、「味鋸高彦命」、「豊受姫神」、「菅原道真」
	堀の内羽尾神社	滑川町羽尾4806	恒儀様と称される町崇敬の産土神社。勧請年代は、伝来の古書に倭建命天長西（西暦829年）鎮座と明記されている。 また、別の祭神藤原恒儀青鳥判官と称し、東松山市にある青鳥城址で天長6年9月20日（829年）に卒した人と伝えられ後年に至り合祀されたという。そして此の神社は、藤原恒儀の嫡子恒政と家臣藤原竹連によって創建されたと伝承される。明治4年村社となり大正5年4月に指定村社に昇格した。 （藤原恒儀と言う人物は、別名「恒儀様（ゴウギサマ）」と呼ばれ、昔から親しまれ、非常に力持ちで角力（相撲が強い）という伝承がある。） 藤原恒儀は、大麦の穂で目を突き、片目となってしまったことから、羽尾地区では大麦は禁忌作物であるという伝承がある（滑川村誌民俗編）。 武蔵国郡村誌の比企郡羽尾村の琴平神社の祭神は、金山彦命だった。金山彦命は、金属精錬との関わりが深い神なので、藤原恒儀は、この地域の古代鍛冶集団の長であった可能性があると考えられている。
川	淡州神社	滑川町山田765	神社所蔵の古書によれば創建の年代は応永二乙亥（西暦1395）年とある。三韓鎮定に大功のあった神功皇后を里尊崇して此の地に神霊を奉斎したことに始まると伝えられる。往古は邑の総鎮守であった云う。 祭神「誉田和氣命」、「息長足日売命」、「素盞鳴命」 祭事 元旦祭（1月1日）、祈念祭（3月15日）、禦祭（5月1日）、夏祭（7月14日）、秋祭（10月16日）、新嘗祭（12月15日）、大祓（12月27日）
町	伊古乃速御玉比売神社 （雨乞い行事）	滑川町伊古1242	古社の集成としての『延喜式神名帳』（延喜5年（927年））内に当時官に知られた全国の天神地祇総計3,132社が記載され、その中に県内に関係ある古社は33座。その中の1社が伊古乃速御玉比売神社である。滑川町土塩地内の「淡州神社」、嵐山町太郎丸地内の「太郎丸淡州神社」は祭神が「速御玉売神」となっており、関係が深いものと言われている。 日照りの続く年は、二ノ宮山上で雨乞いを行う。雨乞いの時は、村人が当社に集まり、生きた「やまかがし」を入れた長さ5メートルあまりの藁蛇を作る。この蛇は、笛や太鼓の囃子で送り出され、伊古堰と新沼に入り、大いに揉む。次いで二ノ宮山頂に登り、山上の松の古木に蛇を縛りつける。蛇は、天に昇って竜となり雨を降らせると伝わる。 祭神：氣長足姫命・大鞆和氣命・武内宿称命 祭事 例祭（10月15日）
	土塩淡州神社	滑川町土塩792	神功皇后の三韓鎮定の広徳を仰ぎその神霊を此の地に奉祀したという。 創始の年代は、天命三癸卯（西暦1783年）年7月3日と記録されており、天兒屋根命第58代的伝神祇道唯一人 吉川源十郎源從門によって創立されたと伝えられる。 祭事 元旦祭（1月1日）、新年祭（2月26日）、例祭（4月17日）、新嘗祭（10月17日）、大祓（12月30日） 祭神「速御玉比売命」

地域内神社一覧表

	神社名	住所	由緒、祭事（例祭等）について
熊谷市	高根神社	熊谷市小江川1404	高根神社は、満讃寺の正面にある小高い森山に鎮座している。創建は満讃寺を開山した靈因祖源和尚により行われたとされている。社伝によると古くは元高根の地に鎮座していたが、参拝に不便を来したことから享保年間（1716～1736）に現在の地に遷座したと伝えられ、曹洞宗高根山満讃寺が別当として管理などを担った。明治初年に満讃寺の手を離れ、明治5年に村社となる。祭神は『明細帳』によると味鋤高彦根神、伊邪那岐命、伊邪那美命の三柱で、古くから「高根明神」と崇められていた。年間の祭事は七つあり、その一つの春季大祭は毎年3月16日周辺の日程で行われている「平方のお獅子様」であり、「小江川獅子祭」として熊谷市の無形民俗文化財に指定されている。現在でも、埼玉県上尾市平方八枝神社から借りたお獅子様で村回りを行っており、お獅子様を社頭に据えて村の悪疫除けと五穀豊穡、家内安全、厄除招福の祈りを込めて祭典が地元総代によって運営されている。
	塩八幡神社	熊谷市塩142-1	塩八幡神社は、社伝並びに棟札写しによると当初「八幡沢」と称する地に鎮座し、大永2年(1522)に本殿の再建を行い、慶長13年(1608)に現在地に遷座したとされる。その後、天明2年(1782)に本殿の再建などが行われた。旧地とされる「八幡沢」は現在地の南方約700メートルに位置する。古くから常安寺が別当として管理の関わりがあったとされるが、明治初年の神仏分離により常安寺の手を離れ、明治4年に村社となり同42年には指定村社となった。境内の一画に十数社の末社が合殿として祀られている。祭神は品陀和氣命（推定）、別称：菅田別命とされ、戦前は武神を祀る社として武運長久を祈願する出征兵士家族の八幡八社詣が盛んに行われたとされる。例祭は4月4日の春日待で、昔この地に疫病が流行ったとき群馬県尾島町の八坂神社からお獅子様を借り祓ったところ、靈験が現れたとして以来村内の家々を祓う行事が伝承されている。
	柴八幡神社	熊谷市柴164	柴八幡神社は、社伝によると、創建は後鳥羽天皇の御代、建久年間(1190～1198)といい、鎌倉の鶴岡八幡宮を本社として関東各地に建立された八幡社の一つであるといわれている。また、戦国末期に当地に土着し江戸期を通じ代々名主努めた信濃国の豪族小笠原氏の後裔である柴家との関わりも強く、柴家の祀った神社であったとも推定される。祭神は武神として誉れ高い菅田別命として、戦時中は当地出身の兵士は必ず武運長久の祈願をしたという。年間の行事は、元旦祭、春祭り、秋祭り、大祓式があり、元旦祭は氏子繁栄を祈る祭りとされている。
熊	中条大塚熊野神社 (悪天候避け祈願)	熊谷市大塚365	大塚の地名は、その地内に大きな古墳があることに由来する。この古墳は、7世紀初頭に作られたものでその出土品から土地を支配していた豪族の墓であろうと推測されている。中条大塚熊野神社はこの墳丘上にあり、古墳の下には江戸時代に別当であった龍昌寺がある。『風土記稿』の記述から江戸時代には既に大塚の鎮守として祀られていたとされるが創建の時代は明らかではない。家内安全・五穀豊穡の神と信仰され、初詣・お宮参り・七五三などの参拝者も訪れる。祭事で特色のあるものとして、雹祭り、と風祭りがあり作物を害する悪天候を避けられるように祈願する伝習があったとされる。神仏分離後の明治5年に村社となり、同42年には地内に鎮座していた猿田彦神社・豊蚕神社・塞神社の四社を合祀した。祭神は熊野夫須美命・速玉男命・家都御子神の熊野三神である。
	御正新田雷電神社 (雨乞い祈願)	熊谷市御正新田438	御正新田雷電神社の創建は、村の開発が進められる中で行われた。社伝によると、慶長年間に干ばつがこの地を襲い、村人は困窮し、京都の加茂別雷神社（上賀茂神社）に降雨を祈願した。たちどころに神威が現れ歓喜した村人は、元和元年に同社に代参を立て分霊を奉戴して帰郷し、この地に奉斎したという。明治7年に村社となり、同40年には字上原の山神社と字北内手の粟島神社、翌41年には字大坂の白山神社と字天神山の笹稻荷社をそれぞれ合祀したとされる。太平洋戦争前までは夏祭りの灯籠祭りが盛大に執り行われ、また、昭和20年代までは悪病除けを行う獅子回しの祭典で賑わったと伝えられている。祭神は大雷命（推定）で、社の役瓦には雷の文字や左三つ巴紋が浮き彫りになっている。
	飯玉神社	熊谷市千代625	社名の飯玉は穀霊を示し、飯は炊いた米、玉は魂・霊を意味している。祭神を豊受姫命とし、当地から古墳後期の古墳群や窯跡、また縄文期の集落跡が確認されていることから古代において耕作した稲穂を献じ、これを炊いて享受する新嘗祭が行われた場所ではないかと考えられている。祭事は祈年の春日待と新嘗の秋日待と年2回行われる。社前の「お池」と呼ぶ沼に、神の使いという片目の鯉や鮒が多く住むと伝承され、当社は目を患う人に信仰を集めていた。『埼玉県伝説集成』には「神饌の魚は神様の体の一部になるべき品であり、川や池から取ってきたものをすぐ差し上げるのはおそれ多いから、祭りの前年に清い泉の湧く神社等の池に放っておいた。この場合片目をつぶしておくことは、他の魚と違ってその魚が神に召される印であった」と記されている。
	野原八幡神社 (悪病進入防止祈願)	熊谷市野原66	野原八幡神社の祭神は菅田別命であり、社蔵の「九石」は創建当初から祀られていると伝わり、心霊の宿る石として大切に保管されている。創建年代は明らかではないが、寛永20年(1643年)、領主の前田安芸守の崇敬が厚く、侍臣の田村茂兵衛に命じて社殿の造営に当たったことが社殿の棟札に残っている。宝暦11年(1761年)、領主の前田半十郎が家臣、内貴と左衛門に、本殿(内宮)の作事棟梁とさせたことが別の棟札に記されている。平成9年に社殿を再建し境内の整備を行った。春秋の両大祭は「お日待」と呼ばれ古くから行われている祭りである。境内には、天和2年(1682)に建立した庚申塔のほか8基の庚申塔があり、村人が道の神として道中安全・悪病進入を防ぐものとして祀ったとされる。

地域内神社一覧表

	神社名	住所	由緒、祭事（例祭等）について
谷	須賀広八幡神社 （獅子舞奉納）	熊谷市須賀広237	須賀広八幡神社の祭神は誉田別命である。社伝によれば、創建は延喜17年（917）であり、醍醐天皇の代である。創建以後「弓矢八幡」と呼ばれ、武門武将の崇敬が極めて厚く、上野国山名八幡とともに上武両国に名高かったといわれている。11世紀末、八幡太郎義家が奥州征伐（後三年の役）の赴く途中、侍人を代参させ戦勝祈願したという伝えもある。大祭は毎年10月14日夜と15日に行われる秋祭りで、氏子の中に古くから伝わる「ササラ」獅子舞が奉納される。この「ササラ」獅子舞は熊谷市指定無形民俗文化財に指定されている三頭一人立ちの獅子舞で、他に花笠、棒使い、道化で構成され、舞の奉納披露の前後にムラマワリを行う祭礼が伝承されている。
	登由宇気神社 （雨乞い祈願）	熊谷市村岡851-1	登由宇気神社がある旧村岡村は古くは上吉見領23村の1つであり、相上の吉見神社を鎮守としていた。社伝によると総鎮守から村内鎮守への変革は、当地が応永期（1394～1428）の戦乱に巻き込まれたためであると伝わる。その後、村が整えられかつての総鎮守若しくは恩田御厨の関係により伊勢神宮を勧請したものと考えられる。祭神は豊受媛神（別称）豊宇気毘売神とされる。現社名は、明治初期の改称である。年中行事は、歳旦祭、節分祭、祈年祭、春季例祭並びに入学奉告祭、八坂祭、秋季例大祭、新穀感謝祭、除夜祭である。このうち特殊なものとして、祈年祭、例祭、八坂祭、新穀感謝祭に行われる「団子撒き」がかつて行われていた。祭典後に境内の団子撒き台から集まった氏子に撒かれ賑わいを見せていたようである。また、古くから住んでいる人たちの区域では隣組ごとに行事があり、五番組で祀る九頭竜大権現は雨乞いの霊験で有名であった。石宮を堤防上に揚げ僧侶又は神職が祈願し、水を掛けただけで3日以内に必ず雨になるというものであった。現在その行事は休止している。
	吉見神社 （各種水祈願）	熊谷市相上1639-1	吉見神社は『新編武蔵風土記稿』相上村の項に、《神明社 当社古へは上吉見領の総鎮守なりしが、各村へ鎮守を勧請して、今は村内のみ鎮守とせり》とあるように、古くは神明社と称し、上吉見領の23村の総鎮守だったと記されている。創建を語る文書が伝えられており、一つに和銅6年（713）の伝として、景行天皇五十六年に御諸別王が当地を巡視した折、田野が開かれず、不毛の地であるのを嘆いて倭国の山代国・川内国・伊賀国・伊勢国の多くの里人を移して多里（大里）郡を置いたとされている。後に豊かな地となった報賽として、太古に武夷鳥命が高天原から持ち降ったという天照大神ゆかりの箆を神体として天照大神を祀り、以来、御諸別王の子孫が代々神主として奉仕していると伝わる。上吉見領23村に含まれる上・中・下の恩田は、鎌倉円覚寺正統院文書中に「武州恩田御厨」とあり、伊勢神宮の神領であったことが記されており、当地は伊勢神宮との関係が深かったことがうかがえる。当地には大蛇退治の伝説があり、敷地内には安政四年（1857）建立の金毘羅大神社、弁才天女宮などが祀られている。以前は春秋例祭・天王様・新嘗祭にて「相上神楽」が演じられていたが継承者が少なく、継承が一時休止した。平成27年頃から「相上神楽保存会」による保存継承活動が再開した。
市	青山神社	熊谷市青山1	青山神社は天正武蔵国造兄多毛比命の墓墳とつたえられる「甲山古墳」（埼玉県指定史跡）の中央に位置する。青山神社の祭神は甲山古墳の被葬者であると伝えられる兄多毛比命をはじめ、八幡社の祭神であった誉田別命、日吉神社の祭神であった大山咋命、明治42年に合祀された八雲神社の祭神であった素盞鳴命の四柱である。社記によると、慶長13年（1608）に村人が古墳から剣・鏡・五軀玉・土偶・土馬などを発掘したが、その後間もなく村に病がはやったので、塚を埋め戻し、祟りを鎮めるため墳頂に八幡神を祀ったことが創建であるとされている。一方、青山村には文永年間に長福寺の開基に当たり鬼門鎮護のため勧請された日吉神社が村の鎮守として祀られていたが、後の大正6年に青山神社と称するようになったという伝承もある。年間祭事として、元旦祭、山王祭、天王祭、例祭のお日待、鎮火祭、大祓が執り行われている。近隣には当地の名主を務めた勤王の志士として名を馳せた根岸友山や明治時代の好古家（考古学者）や貴族院議員として活躍した根岸武香の墓地がある。
	熊谷市	出雲乃伊波比神社	熊谷市板井718
深	本田春日神社	深谷市本田2025	社記によると、河内国（現大阪府）に鎮座する枚岡神社を分祇したもので、創建当時枚岡神社と称していた。しかし、平城京への遷都に伴い、藤原氏はその氏神として河内国の枚岡神社を春日山に奉斎し、春日神社と改称したことから、当社も春日神社と改めた。 行事 2月17日祈年祭 4月4日歎学祭 4月14日例祭 6月30日大祓 7月14・15日八坂祭 10月14・15日大祭 11月24日新嘗祭 12月31日大祓
	坂上神社	深谷市本田4898-1	天慶三年（940年）に依藤太が将門追討に向かうとき、当地において病にかかり、赤城大神と薬師如来に祈り平癒し、後に藤太の子孫がこの地に住んで本田次郎近常と名乗り、先祖を偲んで赤城神社と依薬師を祀った。 明治41年に地内黒の谷の稲荷神社、後鷹の巢の愛宕神社を合祀し、大正7年4月に社号を坂上神社と改称した。 行事 1月1日元旦祭 2月17日祈年祭 4月1日歎学祭 4月15日例祭 10月14日の秋例祭 11月23日新嘗祭 12月30日大祓

地 域 内 神 社 一 覧 表

	神 社 名	住 所	由緒、祭事（例祭等）について
谷 市	八幡神社（川本地区）	深谷市本田138	社伝によると、当社の創建は養老6年（722年）。多治比県守が遣唐押使として渡唐の際、筥崎宮を拝し、その神助によって使命を全うした。その後、県守は征夷将軍に任じられ、その効を奏したことから、当地に筥崎宮を勧請して「筥崎八幡宮」と称した。 行事 元旦祭 2月17日祈年祭、4月2日歎学祭、4月15日例祭、8月14日十五夜祭、10月15日秋日待
	浅間大神社	深谷市今泉51	富士浅間信仰は、近世初期に富士道者の一人角行が江戸に富士講を開いたの機に、江戸の町民の間で人気を高め、後に近郊農村にも伸展していった。当社はこのような中で創建された社の一つである。「風土記稿」には、広泰寺持ちの社の一つとして「浅間社」が載り、化政期（1804-30）には既に祀られていた。 行事 1月5日新年祭 1月2日初午祭、4月10日春祭、7月25日祇園祭り、10月15日秋祭り
	藤田神社 （雨乞い行事）	深谷市本郷1523-1	「風土記稿」によると、「藤田社 藤田郷寄居村の聖天を勧請せしものゆへ、この社号ありと伝、されど寄居村正龍寺の旧記に、康邦夫婦及び先祖政行の三霊を神に祀り、用土城西北の原野中、藤樹の下に三社を建立し、藤田大明神と唱ふ」と記されている。これにある聖天は、藤田郷十二か村の惣鎮守である聖天宮のことで、永享6年の「前長門守藤田宗員寄進状」によると、北武蔵の名族藤田氏に厚く崇敬されていた。古くは氏子区域を一巡した後、「舞い込み」という舞を行いながら象殿にある山中の池まで行く習わしがあった。その道中では必ず降雨があり、近隣の農作物を潤したため、「本郷の雨乞い祭り」とも呼ばれていた。 行事 元旦祭 2月11日建国祭、4月10日春季例大祭、7月10日大祓、7月24日・25日祇園祭、10月14・15日秋季大祭、12月25日大祓
	八幡神社（花園地区）	深谷市武蔵野1862	当社の西側を通る県道小前田・児玉線は源頼朝が鎌倉幕府を開いてから整備した鎌倉街道であると伝えられている。当社も鎌倉に向かった当地の武将が信仰したものであろうと言われている。 行事 元旦祭 2月11日建国祭、4月15日春祭り、7月20日八坂祭、10月15日例祭、12月15日新嘗祭
寄 居 町	立原諏訪神社	立原	諏訪神社は、武州日尾城主（小鹿野町）諏訪部遠江守が鉢形城の家老となって出仕したとき、信州にある諏訪神社を守護氏神として分祀奉斎しました。 やがて天正18年（1590年）鉢形城の落城により、この近辺から北条氏の家臣たちが落ちていき、人々も少なくなりました。しかし城下の立原の人たちは鎮守様と崇敬し、館の跡を社地として今日の神社を造営したものです。 本殿は宝暦年間、その他の建造物は天保年間に造営されていて、年に三度の大祭を中心に、人々の心のよりどころとなっています。 なんどかの台風にあいましたが、空掘御手洗池に深い面影を落している櫓の大木は、400年にわたる歴史の重みを静かに語りかけているようでもあります。 祭神は建御名方命、相殿に菅田別命が祀られています。これは明治42年萩和田の八幡神社が合祀されたものです。
	釜山神社	風布	この神社の起源、設立については明らかではありませんが、伝説、古文章等によると、紀元504年頃、第9代開化天皇の皇子（日之雅皇子命：ひのわかみこのみこと）が武蔵国を巡幸した折、釜伏山奥の院において旅の安全と国内の平定安康を祈ったといわれています。 その後、紀元770年頃、日本武尊が巡幸した折、この神社に立ち寄り、山頂において神様に供える粥を釜でたかれ、この釜をじ神体岩上に伏せ願望成就の祈りをしたと伝えられています。このことから「釜伏山」「釜山神社」の名が付けられたといわれています。 また、一説によると関東平野から眺めると、山の形が釜を伏せたように見えることから、この名が付けられたともいわれています。 釜山神社には、この世の五大要素といわれる「木火土金水」の霊神が祭られており、特に、火防盗難の守護を始めとして諸々に無限の幸を贈るといわれています。

地域内神社一覧表

	神社名	住所	由緒、祭事（例祭等）について
嵐山町	太郎丸淡州神社	嵐山町太郎丸	「風土記稿」に「個は水房村の内なりしが、寛文5年（1669）見地のありしより、わかれて枝郷となれり、此検地の時村太郎丸が開墾せしちにて開発者の名を村名になれるにや」とあり水房村の鎮守である淡洲明神社を開墾の祭に分霊して祀ったと考えられる。淡洲神社は他に六社あり、滑川町伊古の伊古乃速御玉比賣神社を中心に囲むように放射状に分布しているのが特徴。
	古里兵執神社 （獅子舞奉納）	嵐山町古里766	毎年10月18・19日の秋季例大祭に厄除けや豊作を祝い古里の氏子のより獅子舞が奉納される。この獅子舞は、太鼓に文政年間（1818年頃）の記載があったことから江戸時代にはすでに舞われたと考えられる。獅子舞は、万灯、法螺貝、金棒つき、先連、棒司い、花笠っ子、仲立ち、獅子（男獅子・女獅子）、笛吹き者で構成され獅子役に限っては小学生からはじめ、満八歳で交代になる。
	大蔵神社 （五穀豊穰）	嵐山町大蔵523	大蔵八坂神社の御神輿の由来は、天保七年（一八三六年）六月に造られたと考えられ天明三年（一七八三年）七月に浅間山の大噴火があり、その後の天変地異により天明七年までを天明の大飢饉。天保四年から十年までを天保の大飢饉といわれた年代で、相当の病人死人が出たと記録されている。まさに大飢饉の最中に五穀豊穰身体健全を願って御神輿を造られたことが想定される。
	手白神社	嵐山町吉田952	手白神社の御祭神筆頭である手白香姫命は継体天皇の后。二十四代仁賢天皇の第五皇女であり、武烈天皇は同母弟にあたる。古事記では手白髪郎女と表記されている。この社の起源として宝永三年（1706）に別当泉蔵院から領主折井氏に提出された伝説として、「仁賢天皇（第二十四代）の第五皇女に手白香姫命という女性があり、武烈天皇の酷刑苛政を諫めたがきかれないので東国に下り、この吉田の里に止って里人を教化した。ところがある日、手白香姫が村内を巡回し、とある清水で手を洗おうとして懐中の鏡を水中に落してしまった。水底を探し尋ねたがついに発見することができなかった。その後、手白香姫は都に帰り継体天皇の皇后となった。鏡を落とした湧水は鏡浄呂（きょうしょうろ）池と名づけ、姫の命によって鏡浄呂弁財天を祀った。その後、白河天皇の御代（1080年頃）に村長の芦田基氏という人が早朝弁財天に参詣したところ、社木の樫の木に向って神気が立ち上がり、その中に姫の姿が現れて「私は先年ここで鏡をなくしたので魂はまだここに止っている。手の業を望むものや手の病気を患うものは来て頼むがよい。」というお告げがあったという。大和王権は第25代武烈天皇没後、一旦血統が途絶える。嫡子がいなかった為だ。その為ヤマト朝を構成していた豪族連合の意向を受け、遠い越前国に住んでいて約5代前に分家した意富富杼王が謂わば婿入りの形で手白香姫命との婚姻を条件に大王の位を引き継いだ。第26代天王継体天皇である。そしてその嫡子欽明天皇（509～571）は王家本流として敏達から舒明、そして天智・天武へと連なる大王家の礎とも云える系統を保持することができた上においてもこの手白香姫命の存在は大きかったといえる。
	越畑八宮神社 （獅子舞奉納、雨乞い）	嵐山町越畑1445	『県指定無形文化財の獅子舞で知られる当社の由緒は、「明細帳」に「勸請人皇四十七代聖武天皇ノ御宇ト申ス其後承平年中經基公関東征討ノ節此ニ祈願シ遂ニハケ所ニ是ヲ祭ルト云フ」と記されている。祭神は「明細帳」や「郡村誌」では応神天皇とされているが、それは当社の由緒に源経基が出てくるところから、源氏の氏神である八幡神社の祭神を祀ったものと推測される。八宮神社は比企郡に九社鎮座し素盞鳴尊や天照大神御子神五柱命・月読命御子神三柱命などを祭神とするところが多い。毎年7月25日の前後で1番近い日曜日に夏祭りが行われ雨乞いの行事として「越畑の獅子舞」です。獅子舞はササラといわれ、数百年前に飢饉に見舞われた人達が伊勢山田（現在の三重県）から習ったのが始まりで獅子舞は万灯、法螺貝に始まり、先払い、先達（神主）、氏子総代、棒司、花笠っ子、笛吹き衆、中立、獅子三頭の順で列をつくり神社へ着くと舞う場を清め獅子舞が行われる。
	勝田淡州神社	嵐山町勝田270	当社は「勸請年月不詳宝年中（1704-11）中宮建立、文化年中（1804-18）上屋建立、嘉永年中（1846-54）鳥居建立」と記載されている。江戸期には淡洲明神と号していたが、維新の際に社号を改称している。
	菅谷神社	嵐山町菅谷608	本社大山咋命は元日枝神社なり是は畠山重忠年十七才にして治承四年十月武蔵国長井の渡しの頼朝の御陣所に参し頼朝公に属して先鋒の将となり各地の戦争に大に軍功あつて此の菅谷の地を賜り依て此に新城を築き居住となし武運長久の守護神として近江国日吉山に鎮座なす（現今滋賀県滋賀郡坂本村官幣大社日吉神社此の御分霊は日本国中即ち三府貳拾県の内に五百社之あり其の一社の内の御分社）日吉山王権現の御分霊を畠山重忠請願に依建久元年九月十九日に奉遷勸請す故に日吉山王大権現と称せしを明治四年神社取調の節村社に列せられ社号を日枝神社と改称す是より本社境内に須賀神社及秩父神社の二社ありしを以て左に列記す須佐之男命は須賀神社と称して創立不詳なれども本村成立と同時に勸請せしものと伝う
鎌形八幡神社	嵐山町鎌形1993	平安時代初期の延暦年間に、坂上田村麻呂が、九州の宇佐八幡宮の御霊をここに迎えて祀ったのが始まりであると伝えられている。所在地は都幾川の左岸、神社は延暦年間の創建と言うから歴史は古い。決して参拝客は多くないが境内は綺麗に整備されている。	

地 域 内 神 社 一 覧 表

	神 社 名	住 所	由緒、祭事（例祭等）について
	鬼鎮神社	嵐山町川島1898	鬼が祭神として祀られている神社である。節分の際には「福は内、鬼は内、悪魔外」と掛け声をして豆をまく。鬼は内と言うのは、他の寺社から追い払われた鬼がここにやって来られるようにするためとも言われ、また悪魔とは参拝者に取り憑いた魔のことであり、これだけをうち払うのだという。また武運長久にご利益があり、それが叶うと金棒を奉納する伝統がある。鬼を非常に意識した神社である。この神社の創建は寿永元年（1182年）、畠山重忠の菅谷館の鬼門に当たる場所に厄除けとして設けられたのが始まりである。鬼門封じに建てられた神社であるから、創建当初から鬼と関わりがある。さらに地元では「鬼鎮様」と呼ばれる伝説も残されている。
東 松 山 市	正代御霊神社	東松山市正代841	鎌倉期の地頭である小代氏により創建された。主祭神は牛頭天王、源義平。 例祭としては7月25日に近い日曜日に夏祭りがあり、無病息災を祈願し氏子の正代はやし連の人達によって祭りばやしが奉納される。現在のはやし連が出来たのは昭和6年であると記され、市指定無形民俗文化財にも指定されている。
	早俣子剣神社 （水難避け祈願）	東松山市早俣423-1	ご神体は日本武尊、剣根命であり、ご神体の子剣大明神像は源頼朝の家臣、源森次が奉納している。水難よけ、養蚕の発展祈願。 旧4月10日に先祖祭（例祭）が開かれる。
	宮鼻八幡神社 （獅子舞奉納）	東松山市宮鼻216	伝承では創建は貞観年間（859年～877年）と言われている。御祭神は応神天皇。 例祭として、4月1日の春祈祷には獅子舞が奉納され、悪病除けに部落内を行列して歩く廻り獅子が行われる。 11月3日の秋の祭典には風雨柔順、五穀成就、氏子快樂、今上皇帝、軍民和合、天下泰平、八幡大神を祈願し獅子舞（S55.11に市指定無形民俗文化財に指定）が行われる。 ※ 現在は後継者不足により舞は中止されている。 この獅子舞は当該地では風水害被害が多かったことから神社へ奉納することとなったのがきっかけであるとの伝承。

地 域 内 神 社 一 覧 表

	神 社 名	住 所	由緒、祭事（例祭等）について
東 松 山 市	高坂神社 （雷電 祀り）	東松山市高坂 1 0 6 1	8 0 0 年代始め、坂上田村麻呂がこの地を通った際に日本武尊が東夷征伐を行った故事をしのいで祀り、八剣明神社と号したことに始まる。 明治 4 2 年 2 月 1 9 日に日枝、天神、雷電、八雲神社等が合祀され、現在の高坂神社に改称。 当該地は古墳・遺跡が多くあり、境内には剣前古墳と呼ばれる後期古墳がある。 例祭は 4 月 1 5 日春祈禱、神楽奉納。その他、8 月 1, 2 日は夏祭りがあり、合祀されている八雲神社の例祭。高坂の天王様と呼ばれ、賑わいをみせている。
	野本利仁神社	東松山市下野本 6 1 2	野本将軍塚古墳の墳頂に社殿が建っており、平安時代の藤原利仁を祀っている。創建は延長元年（9 2 3 年）と伝えられる。 例祭は古くから無病息災の祭りであるとされている。
	箭弓稲荷神社	東松山市箭弓町2-5-14	伝承では創建和銅 5 年（7 1 2 年）主祭神は保食神（うけもちのかみ）。 平安時代中頃は野久稲荷神社の呼称であったが、1 0 3 0 年に源頼信が戦勝祈願をしたところ、矢（箭）の形をした雲が現れ、戦にも快勝。社殿を 建立し、箭弓稲荷大明神とたたえられたことにより、箭弓稲荷神社と改称した謂れ。 例大祭が 9 月 2 1 日に行われている。
小 川 町	下里八宮神社 （獅子舞奉納）	小川町下里 9 1 2	創建の年代や遷座の記録は残っておらず、現在地への遷座の時期は不明であるが『神社明細帳』によると、初めは東方の志賀村（現嵐山町）の境に位置していたが、近郷七ヶ村の総鎮座として現在地に遷座したという。7 月の第 3 日曜日に当社・下里大聖寺・八坂神社にささら獅子舞が奉納される。
	小川八宮神社	小川町小川 990-1	創建年代は不明。当初はスウツ山（現日赤西側）に祀られていたものを、享保 2 年（1717 年）に現在地に移したと伝わる。現在の本殿（県指定文化財）は天保 4 年（1833 年）に建立されたもので、中国の伝統・風俗を題材にした造りである。祭神は、氏子の中で「五男三女神の八柱の神」と伝わるが、その解釈は諸説ある。境内には県指定文化財の青麻三光宮や諏訪神社などの末社があり、青麻三光宮は足の神様としての信仰が篤く、願をかけて足の痛みが治ると草鞋が奉納される。
	高見四津山神社	小川町高見 1125	『神社明細帳』によると元来は愛宕神社と称し、山麓の高見山明王寺の境内鎮座であったが宝暦 9 年（1759 年）に現在地に遷座したという。明治 4 0 年に高見・能増の 1 1 社を合祀し四津山神社と社号に改めた。本殿には白馬に乗った勝軍地蔵が納められている。4 月第 4 日曜日に大祭。
	腰越氷川神社	小川町腰越 1382	延暦元年（782 年）の創建と伝わるが、明確な根拠はない。『新編武蔵風土記』によると、本山派修験の腰越山金住院が別当として祭祀が行われていた。天保 4 年（1833 年）銘の梵鐘があったが、太平洋戦争に際して供出され、氏子の浄財によって昭和 52 年（1 9 7 7 年）に現在の梵鐘が奉納された。裏手の岩山の崖下には産泰様が祀られており、子宝に恵まれない女性が神体の石棒をなでるとご利益があるといわれる。
	奈良梨八和田神社	小川町奈良梨 939	もともと諏訪神社として現在地に鎮座していたが、明治 40 年に近隣諸村の神社 11 社を合祀した際に八和田神社と改められた。諏訪神社のご神体を背負った諏訪からの落人により当地に祀られたとも、千野氏によって勧請されたともいわれる。10 月第 4 日曜に大祭。